令和７年度　ＦＤ・ＳＤ講演会　実施報告
「学生のメンタルヘルスケアと困難を抱える学生への就学支援」

１　概要

令和８年３月 23 日（月）、「学生のメンタルヘルス」をテーマに、オンラインにてＦＤ・ＳＤ講演会を実施した。近年、本学でも学生のメンタルヘルスに関する課題が多様化・複雑化していることを踏まえ、教職員の理解促進および対応力の向上を目的として開催した。

講師には、長年にわたり学生支援の最前線で活躍してこられた名古屋大学の杉岡正典准教授を迎え、各研究科・学部に対して事前に実施した調査結果を踏まえた講演が行われた。講演では、学生のメンタルヘルスケアに関する基本的な考え方から、困難を抱える学生への具体的な対応方法や支援の在り方について幅広く解説がなされた。

本講演を通じて、教職員が学生支援に必要な視点や実践的な知識を共有し、今後の学生支援を考えるうえで有意義な機会となった。

２　開催日時

令和８年３月 23 日(月) 16:20～17:30

３　開催方法

オンライン（Zoom）

４　内容

（1）挨　　拶：**理事（教育）・高等教育院長　伊藤 恭彦教授**

（2）司 会 進 行：**高等教育院　松尾 美香准教授**

（3）講　　師：**名古屋大学 心の発達支援研究実践センター こころの支援実践分野 杉岡 正典准教授**

（4）総　　括：**学長補佐（入試・学生）　森田 雄一教授**

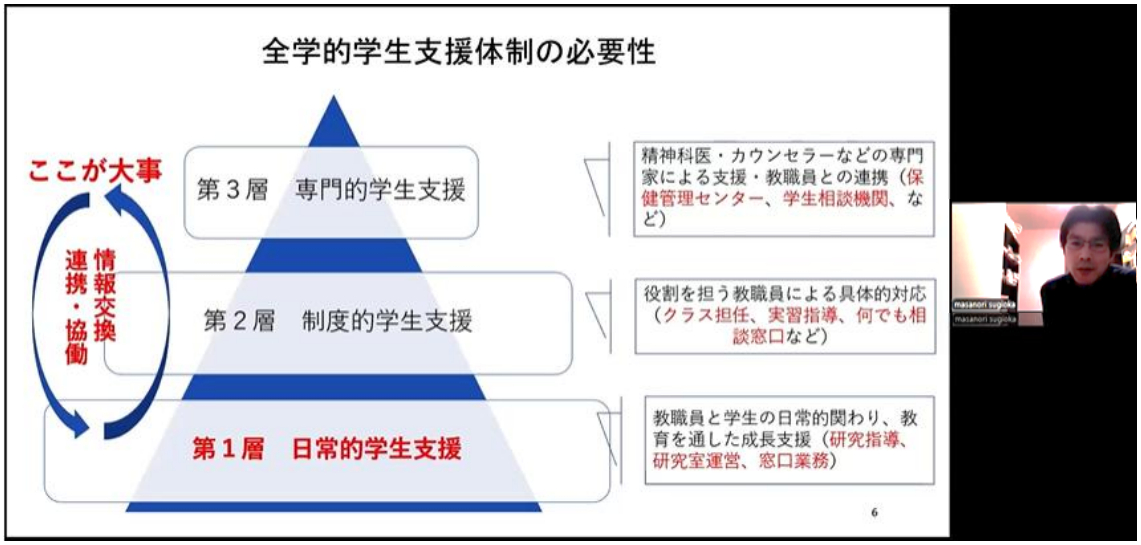
５　参加者

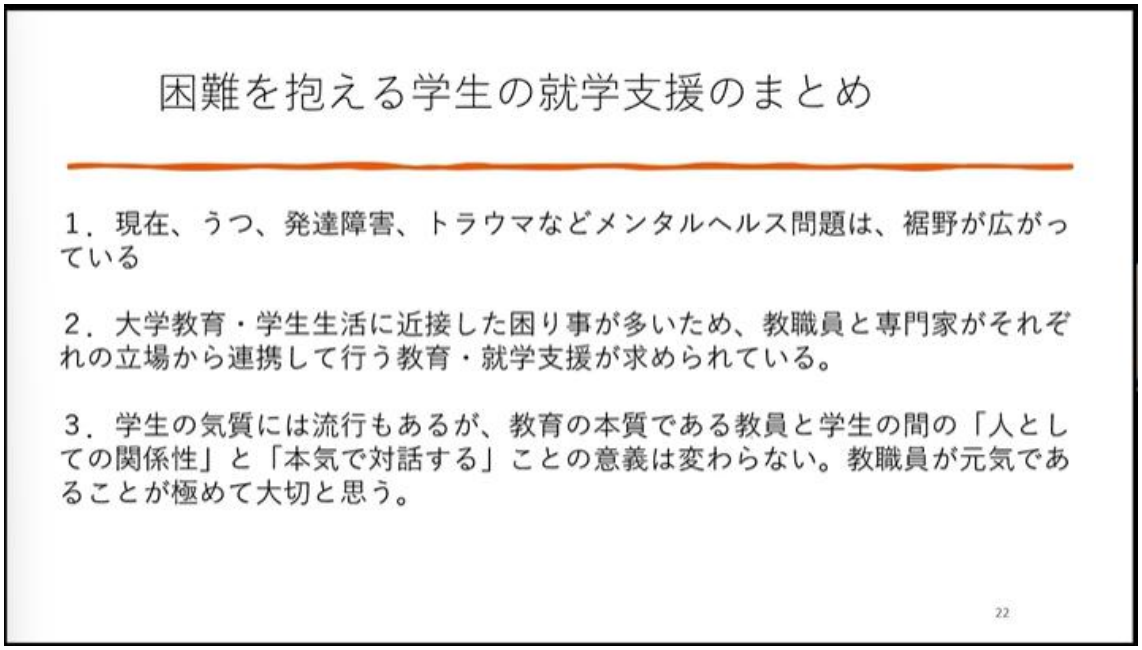
106 名

【内訳】

区分	名古屋市立大学	愛知県立大学	愛知県立芸術大学
職員	31 名	8 名	1 名
教員	57 名	9 名	0 名

６　様子


全学的学生支援体制の必要性
ここが大事
情報交換
連携・協働
第３層　専門的学生支援
第２層　制度的学生支援
第１層　日常的学生支援
精神科医・カウンセラーなどの専門家による支援・教職員との連携（保健管理センター、学生相談機関、など）
役割を担う教職員による具体的対応（クラス担任、実習指導、何でも相談窓口など）
教職員と学生の日常的関わり、教育を通した成長支援（研究指導、研究室運営、窓口業務）
6


困難を抱える学生の就学支援のまとめ
1．現在、うつ、発達障害、トラウマなどメンタルヘルス問題は、裾野が広がっている
2．大学教育・学生生活に近接した困り事が多いため、教職員と専門家がそれぞれの立場から連携して行う教育・就学支援が求められている。
3．学生の気質には流行もあるが、教育の本質である教員と学生の間の「人としての関係性」と「本気で対話する」ことの意義は変わらない。教職員が元気であることが極めて大切と思う。
22

7　アンケート結果（一部抜粋）

回答者　74 名（アンケート実施方法　Microsoft Forms にて実施）

【内訳】

区分	名古屋市立大学	愛知県立大学	愛知県立芸術大学
職員	22 名	6 名	1 名
教員	45 名	0 名	0 名

〇講演内容を理解できましたか？

□　理解できた	89.2%
□　理解できなかった	0.0%
□　どちらともいえない	10.8%

〇今後、学生支援を行う上で、参考になりましたか？

□　参考になった	89.2%
□　参考にならなかった	1.4%
□　どちらともいえない	9.4%

〇次回の FD・SD 講演会にも参加したいと思いますか？

□　そう思う	87.8%
□　そう思わない	10.8%
□　どちらともいえない	1.4%

〇本日の講演会についてのご意見・ご感想などを自由にご記入ください。

・「これだけやっておけば大丈夫」というものはなく、ケースバイケース、学生によりそうということが大事だということがわかりました。それと同時に、大人側の負担は依然高いままであるということも実感しました。

・事前質問に対して回答いただくスタイルが非常に工夫されていてよかったです。

・大学内の協働こそが、学生ファーストの支援に繋がると感じました。

・今日の講師の先生の第二弾が聞きたいです。

・悩みを聞いたり、病院へ行くことを勧めるとしても、本人それぞれのタイミングがある、というお話しが印象的でした。そのことを十分に理解して今後のコミュニケーションを行っていくことが大切だと感じました。

・学生との対話を一人の人間として行うこと、そして人と人との関係を築くことの大切さを改めて感じました。

・勉強にはなったが、全てで同じ対応をすることは不可能であり、正直素人が学生の支援を行うのは難しいと感じた。

・もっとたくさんの事例に当てはめたお話が聞いてみたいです。

・大学教員内でも同じような悩みを持っていることが知れて良かったです。1 人でも多くの学生さんの悩みに適切に対応できるようになりたいと思いました。

・時代の流れにより、求められることが変化しており、その対応も変えていかなければならず、自分自身もアップデートしないといけないと感じました。

・学生対応における具体的な指針や大学として成功した取り組み、全国的な動きなどがあればよかったと思った。

・指導教員が対応すべき範囲，学生相談員が対応する範囲を明確にして周知徹底していただければ教員側も今よりはシステマティックに対応できるのではないかと思います。

以上